

北アルプス 劔岳八ツ峰三稜

小暮

【日時】 2007年5月2日(水)～6日(日)

【メンバー】 小暮(L)、笹川

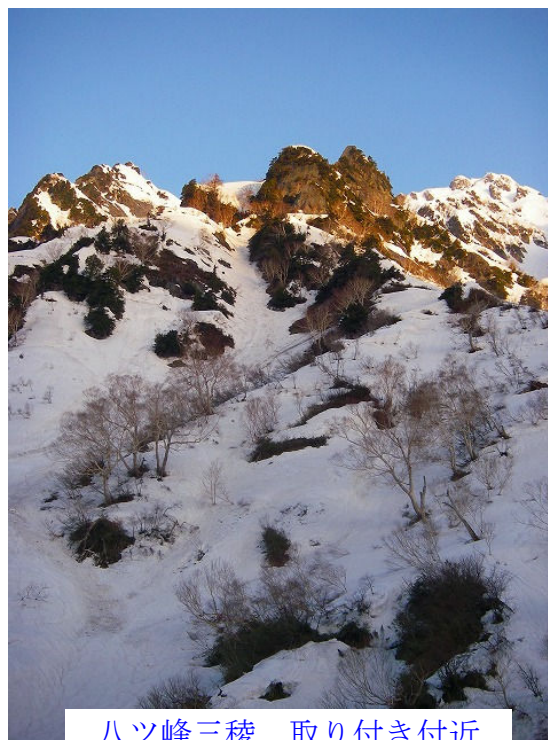
初めて劔岳の登ったのは社会人となった初めての夏休みだった。早月尾根からの北方稜線、劔岳山頂から続くギザギザとそそり立つスカイラインにはただただ圧倒された。トマの風入会后、ゴールデンウィークに一般ルートと小窓尾根から劔岳に登り、美しいスカイラインの八ツ峰にいつか登りたいと思っていた。ここ数年、自分達の方で行ける簡単なルートから始めて徐々にレベルを上げてきた。ある程度の自信を持って登れるようになってきたので、今年のゴールデンウィークの目標は劔岳八ツ峰三稜とした。

1日目 黒部ダム～内蔵ノ助平～ハシゴ谷乗越～真砂沢

一日休みを取って連休後半の前日からの入山である。トロリーバスを黒部ダムで下車し、黒部川に降り立つ。登山道を下降していくと次第に天気予報の通り雨が降り出してきた。重荷と雨に苦しめられるが、明日の登攀日には晴れるのだから我慢と思いつを進める。ハシゴ谷乗越の急な斜面を登り、反対側の沢に乗り越すと一面のデブリ。雨で緩んだ雪が雪崩れないか不安になりながらも、スキーのトレースにしたがって沢を下降する。ぐずぐずの雪のため、足を腿まではまることもしばしばで歩きづらい。正面の劔岳上部はガスが掛かっているものの、雪が少なく悪そうな四稜と、目指す三稜を確認できる。三稜 P1 と思われる岩峰が圧倒的で、明日無事に登れるのかいいようのない不安に駆られてしまった。

2日目 八ツ峰三稜～I峰～I・IIノコル

早起きして5時30分に出発する。今日は三稜を登り、I・II峰ノコルまでの予定である。WEBで検索した記録だとそれほど苦労している感はないが、雪が少ないとクレバス処理で苦労しそうな予感がする。三稜末端の尾根は藪が出ている部分もあるので、末端より左の直接 P1 左のルンゼへと直登する雪壁に



八ツ峰三稜 取り付き付近

取り付く。トレースは無く、このGWは登られていないようだ。雪壁は次第に傾斜がきつくなっていく。白山書房の冬季クライミングのトポにある、岩峰を左にトラバース、灌木をつかみ6mほど下り、急なルンゼを直登するという記述のところが出てきた。記述の通り、岩峰の左側に行くが、ルンゼは灌木がでているので更に左の雪壁を支稜まで登って、まとめてP2も左から巻くことにする。最上部がクレバスになっているので、フリーで登ってからザイルを投げる。ここで笹川を確保し、その先は灌木を掴んで木登りしてスノーリッジにザイルを伸ばす。岩壁に突き当たるので、バンドを左にトラバースしてビレイ解除。その上の急なルンゼを登ると P3?の上に出たと思われる。このあたりの標高は雪が少ないようで苦労した。

これで核心は抜けたと思ったが大間違い。P4へは右から巻いてゆくが、稜上へはズタズタの雪壁となっていて簡単に行けそうにない。うまく雪を繋いで稜線に出る。ナイフリッジを進むと、Ⅲ+~Ⅳ級程度の岩登りとなる。スタカットで登り、ハーケンを1枚打って上に出るが、後続の笹川が登れない。空荷で登ると今度は荷揚げが出来ず困ってしまった。私が降りて荷揚げしたが、女性一人の力では上げられなかったようだ。このピッチで1時間以上かかってしまった。



八ツ峰三稜 ナイフリッジを登る

更に3ピッチ、ナイフリッジと雪壁にザイルを伸ばして行くと、P5の岩登りなる。ここは岩の右側にいまにも落ちそうな雪が乗っていて、非常に微妙なクライミング。更にぐずぐずのシュルンドを微妙に右左とかわして雪壁を抜けると、延々と雪面のラッセルとなる。1時間程度登ってP6の上に出たのだろうか。既に15時を過ぎていく。細い稜線、ぐずぐずの雪壁に時間をとられつつもランニングコンテで登る。段々ガスが出て小雪も舞い天気も心配になってきた。ようやくI峰に出たのは17時。想像していたよりもかなり時間がかかってしまった。

I峰からはスタスタ降りられると思っていたが、硬くなり始めたトレースの無い雪面が恐ろしい。懸垂支点を探すが見当たらず、仕方なくスタンディングアックスビレイをしながら、降りることに。微妙なので、短くピッチを切ったら3ピッチ掛かってしまった。コルに着いたのは、18時50分。いやはや13時間20分の行動時間でした。もうおなか一杯です。

3 日目 I・IIノコル～八ツ峰主稜～池ノ谷乗越



八ツ峰上半部の稜線

コルに泊まっていた 3 人パーティとほぼ同時の出発となり、後になった我々は先行パーティの行動をしばし待つ。ランニングコンテでザイルを使いながらナイフリッジをトラバースし、この後ずっとコンテで行動する。先行のトレースがバケツとなっており、高度感のあるナイフリッジが続くが、難しいところは無い。II 峰からの下降は懸垂ではなく、トレースに従い左の雪壁をクライムダウンした。

III 峰はスノーボード懸垂だ。問題なく IV 峰までナイフリッジを登り、IV 峰の下降は雪の中から飛び出ている赤いスリングにザイルを掛けて懸垂下降。

V 峰は、残置支点から 2 ピッチの懸垂で V・VI ノコルに出た。VI 峰までは、ひたすら急な雪壁を登る。標高の高いところは新雪が GW 前に積もったようで、

低いところとは異なり雪が多い。VI 峰の下降もスノーボード懸垂となる。前のパーティは、一人目が降りる際にスノーボードが切れそうになったとかで、大きなボードを作り直して懸垂している。

その先はしばらくナイフリッジの雪稜が続く。VII 峰でもスノーボード懸垂 8m。VII・VIII ノコルで一休み。VIII 峰はランニングコンテでナイフリッジを越え、そのまま八ツ峰ノ頭へと飛び出した。八ツ峰ノ頭からは、2 ピッチの懸垂でコルに降りた。コルには既にテントが 4 張と、雪洞があった。更に 1 張りを追加して幕。

4 日目 チンネ左稜線（中退）、池ノ谷乗越～劔岳～劔沢小屋

チンネ左稜線をクライミングシューズに履き替えて登る予定であったが、新雪が積もっており、クライミングシューズではなくアイゼンが必要だ。今年は雪が少ないはずだったが、予想外であった。状態が悪いのは分かっているので、いくか迷うが、とりあえずルート基部まで行って様子を見ることにした。

トポの 1 ピッチ目が良く分からず、2 ピッチ目の凹角と思われるそれらしいルンゼに取付く。支点のハーケンがあるのでルートではあるようだ。ルンゼに伸びるのは雪ではなく氷と草付。雪稜の道具でのアイスクライミングとなりちょっと厳しい。30m ザイルを伸ばしたところで、凹角にかかるがツララ状の氷の草付の乗越しが厳しく、ハーケンを 1 枚打ってそこから懸垂して降りた。今回は条件が悪いということでこれ

で退散。課題が残ったが、今度は夏に来るか、雪の少ないGWに再びリベンジか??
敗退の無力感が漂うが、そもそも夏と同じ状態の露岩を登るつもりで来ていて、雪がべったりだから仕方ない。

敗退して時間が早かったので、今日中に剣沢小屋まで進むことにする。劔岳のピークは以前来た時よりも雪が多く、祠は雪の上にちょっぴり出ているだけだった。

5日目 剣沢小屋～別山乗越～室堂

剣沢から別山乗越を越えて、室堂へ下山。雨とぐずぐずの雪でとにかく疲れた。室堂からは観光客に混ざってアルペンルートで扇沢へと戻った。

なんといっても今回の山行は、八ツ峰I峰より下の三稜の登攀が大変であったし充実した内容であった。I・IIノコルより上はトレースばかりで自分で判断する必要も無いことを考慮すると、I峰上部よりも2ランク程度難しいように思われた。

一方、I峰～VIII峰の八ツ峰主稜においては、やはりロケーションと景色の素晴らしさに尽きる。クラシックルートの素晴らしさを満喫させていただいた。

チンネ左稜線が登れなかったのは残念であるが、今後の課題としたい。



八ツ峰上半部の稜線

【行程】

5/2 扇沢(7:30)～トローバス～黒部ダム(8:00)～内蔵助谷出合(9:30)～内蔵助平(12:00)～ハシゴ谷乗越(13:50)～真砂沢C1(15:00)

5/3 C1(5:30)～P3(8:25)～P4(10:30)～台地(15:15)～I峰(17:00)～I・II峰間コルC2(18:50)

5/4 C2(7:00)～III峰(8:55)～V峰(10:30)～V・VIノコル(11:00)～VI峰(12:30)～VII・VIIIノコル(14:10/30)～八ツ峰の頭(15:10)～池ノ谷乗越C3(15:40)

5/5 C3(7:10)～チンネ左稜線取付(8:00)～引き返し(9:00)～三ノ窓(9:40/10:00)～C3(10:30/11:20)～劔岳(12:15/30)～前劔(13:40)～一服劔(14:10/25)～劔沢小屋C4(15:25)

5/6 C4(5:50)～別山乗越(6:40)～室堂(9:25)

【地図】 十字峡、黒部湖、劔岳、立山